

# 三重PECS研究会 第11回研修会報告

## ～事例発表からPECSを学びませんか？～

支援学校の2つの事例発表をもとにグループ討議を行いました。

日時	2015年10月25日(日)13:00～16:20
場所	三重県立稲葉特別支援学校 プレイルーム
参加人数	31名
内容	<p><b>1. A 支援学校 事例発表</b></p> <p><b>(1) 事例発表</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 中学部の生徒の実践。小学部の時に絵カードのコミュニケーション学習をしていた。進学して自分から絵カードで要求することはなかった。</li><li>・ 小6から不安定。パニックが増え、他傷も増えた。家からの飛び出しもあった。</li><li>・ 穏やかな生活を送れるよう、思いが伝わりやすくなるよう、PECSを始める。</li><li>・ 夏休み前後にフェイズ2まで学習し、随分落ち着いた。2学期からフェイズ3の弁別学習。スケジュールの導入を行った。さらに落ち着いた。1学期は一日に1～2回だったパニックが週に1回くらいになった。パニックも1時間続いたのが、30分くらいで落ち着くようになった。</li><li>・ 今後の課題は、「強力な好子の発見」、「般化」、「問題行動への対処方法(掲示物を破る、口の中に物を入れる等)」。</li></ul> <p><b>(2) グループ討議</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 正会員、準会員、保護者ごとの5つのグループに分かれ、発表内容についての討議や各々の情報交換を行った。</li></ul> <p><b>(3) グループ発表</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 好子が弱いのは、自分ですぐ手に入るものが多い。好子をコントロールし、コミュニケーション場面を作っていく。</li><li>・ 人への般化は、まず担任間で。他のクラスの先生にも協力いただく。場面の般化は、学習しやすい「自活」「休憩時間」「給食」から始め、他に広げていく。</li><li>・ 好子カードは7枚であるが、もっと伝えたいことがあるはず。どんどん増やしていく。</li><li>・ 問題行動は、行動分析を。アセスメントが大事。</li><li>・ 好子のコントロールは、子どもと交渉しながらスケジュールに組み込んでいく方法もある。</li><li>・ 家庭で実践しているが、学校でなかなか実践していただくのが難しい。</li><li>・ 好子がどんどん変わっていき、カードがどんどんたまってくるがどうしたらいいのか。</li></ul> <p><b>(4) 助言者の先生より</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 好子のとらえ直し。好きな物だけではない。行動が繰り返されるものも含む。</li><li>・ 学校では、人の般化は容易。いろいろな先生に協力いただく。「買い物」など、人の般化に有効。</li><li>・ 問題行動は、機能分析をする。また、いろいろな角度からアプローチ。ピラミッドアプローチを参照。</li><li>・ 「噛む」「紙を破る」は、問題行動なのか。アセスメントが大切。「噛む物を与える」、「破ってもいいものを与える、紙を破っても良い場面を作る」等、機能的に等価な代替行動を見つけていく。</li></ul>

## 2. B支援学校 事例発表

### (1) 事例発表

- ・ 小学部の児童の実践報告。簡単な文章表現が可能。「楽しい」「嬉しい」等、感情表現を理解できる。カードやことばで要求する。強力な好子は、i-pad。アニメ、粘土、風船等、他にも好子あり。
- ・ 1年生から PECS を学習。1年生で「フェイズ4」、2年生で「属性語とスケジュールの導入」、3年生で「属性語の拡大」を学習。
- ・ 3年生の途中でコミュニケーション学習を見直す。好子アセスメントをし直し、交渉や視覚的強化システムの学習を始める。サポータージュをし、要求場面を増やす。
- ・ その結果、1学期は一日8回の要求回数が、10月には一日22回に増加(給食での要求は除く)。
- ・ 課題は、「人的好子をもっと取り入れる」、「丁寧な好子アセスメント」、「家庭との支援の共有」。



### (2) グループ討議

- ・ 正会員、準会員、保護者ごとの5つのグループに分かれ、発表内容についての討議や各々の情報交換を行った。

### (3) グループ発表

- ・ 「終わりの伝え方」には、いろいろな方法(タイマー、ジェスチャー等)があるのがわかった。次に好きな活動を計画し、主体的に「終われる」方法も有効。
- ・ 視覚的強化システムもトークンを貯めていくタイプもあれば、パズル式、線結び式、色塗り式等、いろいろある。
- ・ PECS のとりくみは、学校や学部で差がありすぎる。学習した場合は、しっかり引継ぎをしてほしい。
- ・ 行事の参加のしんどさについては、もっと丁寧な支援が必要。参加しにくいのは、「見通しの持ちにくさなのか」、「不快刺激なのか」等、細やかにみていく。また、「どのくらいなら(どんな内容なら)参加できるか」、「参加の有無の選択」等の発想も必要かも。
- ・ タイマーの使い方は、「楽しいことを止める」よりも「楽しみを待つために使用」することも有効。

### (4) 助言者の先生より

- ・ 小学部全体で取り組まれているのが素晴らしい。ぜひ、小、中、高とつなげていってほしい。動画つきで指導の経過の資料もつけて、引き継いでいく。
- ・ サポータージュは、要求場面を増やす。まずは、「ルーチンワークを確立」し、「スキルの指導」から行う。「スキルを習得」したら、子どもに気づかれないようにサポータージュする。
- ・ ぜひ「フェイズ6コメント」の学習を。iPad が好きなら、好きなアプリをしていることをコメントしてもらう方法もある。
- ・ 支援者が PECS を使って子どもに伝える。理解が難しい子にわかりやすいし、学習のモデルになる。
- ・ 「好子がなかなか見つからない、広がらない」課題は、どこの地域でも同じ。ピラミッドの資料を参照する。京都では、「好子バンク」を開催し、リストを作成中。

## ポイント

- 問題行動は、機能分析する。機能によって支援方法を考える。代替行動を教えることも大切。いろいろな角度からアプローチする(ピラミッド教育アプローチ参照)。
- コミュニケーション学習は、動画とともに引継ぎを行っていく。